

社会福祉法人
真宗協会
帯広はちす園

そよかぜだより

春季号



新たな年度を迎えて

去年度は新型コロナウイルス発生という大きな危機がありました。利用者様の頑張りや保護者の皆様、地域の皆様のご理解、ご支援で無事に乗り越えることが出来ました。上の写真は、地域の方へのお礼で作製した蓮のリースです(関連記事5ページ)。

蓮は帯広はちす園の名前の由来になった花で、感謝を伝えられる様に生活科の利用者様を中心に、心を込めて作りました。

新たな年度を迎えるにあたり、新しい顔ぶれも増えており、今後も皆様により良い支援ができるように邁進して参ります。

(廣江支援員)

お品書き

- ・ 新たな一年に向けてのご挨拶
- ・ 新職員、異動・退職職員の紹介
- ・ 利用者様のお仕事に密着!
- ・ 新型コロナウイルス発生を乗り越えて
- ・ 感謝を伝えて
- ・ こころもおなかもまんぷくに! テイクアウト食事特集
- ・ はじける笑顔のスナップ写真集
- ・ 編集後記



一年間の労をねぎらった
豪華弁当に舌鼓



コロナの励ましに頂いたお菓子で
元気回復!

新施設長ごあいさつ



このたび、4月1日付の法人内人事異動により、新たに施設長に就くこととなりました佐藤 英（すぐる）です。これまで帯広光南病院にて事務局長を9年間務めて参りました。

さて、昭和60年4月に開設した「帯広はちす園」ですが、命名の基となったのは以下の意味からでありました。

『「はちす」は蓮の古名でその花を蓮華と言ひ、白・赤・青・黄・雑の五色、それぞれ美しく光り輝いて見える。利用者の皆さんが蓮華のように個々別々の姿のままに美しく、輝か

しく、たくましく生き抜き、働くことの苦しみや楽しさを実感し、人生の喜びを共有して欲しい。』

今風に言い換えるならば、オンラインワンの考えであったと思います。

私は社会に生き、仕事を進める上で、大切にしなければならぬのは、人に興味を持ち、人を大切にして慈しむ心を持つことだと常々思っていて、山本五十六氏の「やってみせ、言っ

て聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」を大切な姿勢としています。

自立をお手伝いするからには、利用者さんは勿論、お支えをする職員に対しても、時には厳しく辛いことも申せねば成りませんが、皆さんの長所を伸ばして生き生きと過ごすお手伝いが出来れば幸いと考えています。

到らぬ点が多々あろうかと存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

新入職員紹介



富田 あみ 事務員

法人本部より異動してきました。皆さまよろしくお願ひします。

今までありがとう

異動職員紹介

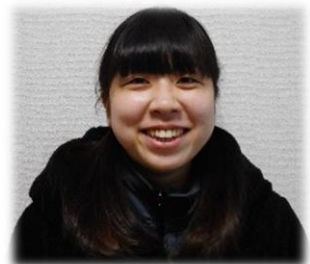


菅原 貢 施設長
勤続年数 40年
光南病院異動



永原 織江 事務員
勤続年数 10年
慈恩の里異動

退職職員紹介



岸塚 天衣 指導員
勤続年数 5年
3月退職



山田 美幸 支援員
勤続年数 8年
3月退職

長らくのお勤め、お疲れ様です。新たな環境においても、応援をしております！皆様、誠にありがとうございました！

計報

長い間はちす園を通所利用されていた石塚早希様が3月18日、入院療養中に息を引き取りました。謹んでおくりやみ申し上げます。

就労支援事業所

今回はお仕事に励む利用者様をご紹介させていただきま
す。ご存じのように就労支援
では椎茸作業（収穫・計量・
菌床整理）やパン作業（計
量・成形・袋詰め）・クッキ
ー製造などの作業に於いても
意欲的に取り組んでいます。

カ仕事も楽勝です！



ラップ掛けは誰にも負けません！



パン作業が一番大好き!!



パンの計量、成型を行っています



椎茸の計量担当です



細かなところまで綺麗!



重いタイヤも弱音を吐かず頑張っています



失敗することなく
正確に組み立てています

施設外実習として段ボール作り・施設清掃・タイヤ切断作業等、多様な仕事にチャレンジしています。



3月8日はホテルから取り寄せた昼食でした。

作業の合間のお楽しみ



〈はじまり〉

1月15日(土)施設では数名の利用者様が発熱し、当番病院にも行きましたが検査することができず、不安を感じながらも施設内で出来る限りの感染対策を行っていました。同じころ休みだった職員1名が体調に異変を感じ、16日に検査をしたところ「陽性」判定となりました。施設はその連絡を受けて、発熱症状のある利用者様の検査をお願いし、5名の利用者様も「陽性」、クラスタが発生しました。



〈感染拡大〉

利用者様や職員へのPCR検査を通じて、感染が急拡大していることを思い知らされました。19日の検査後には利用者様23名と職員5名の「陽性」、終息までに利用者様計35名、職員計12名が感染してしまいました。

〈感染対応中の利用者様の生活〉

感染発生当初から感染区域と非感染区域に分けたことで、生活は日常とは全く異なる状況になりました。食事はお部屋にて少人数で召し上がって頂き、職員は防護服やマスク、ゴーグルを着用し、ぱっと見ただけでは誰なのかわからない姿で支援を行いました。しかし利用者様は、部屋での食事を「キャンプみたいで楽しいね」、誰だかわからない職員に「だれだ？名前は？」とユーモアを交えるなど、利用者様の元気な姿に職員は励まされました。



〈終息、これからも〉

2月18日(金)健康観察期間を経て、クラスタは終息しました。通所利用の停止や、保護者の皆様へご心配とご迷惑をお掛けする状況になりましたこと、深くお詫び申し上げます。今回の発生で学んだことを今後の感染対策に取り入れ、利用者様への更なる安全な生活の場提供に努めてまいります。引き続き、保護者の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします



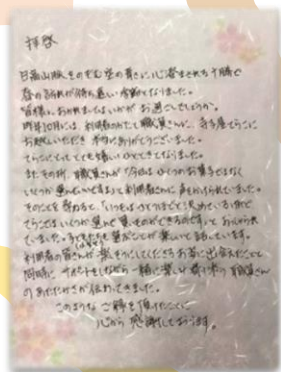
(紅露支援員)

感謝の気持ちを届けに

新型コロナウイルスのクラスター発生中は、各方面から様々なご支援を頂きました。利用者様の保護者様や元職員、さらに帯広はちす園とゆかりのある団体様などからもたくさんのお言葉も掛けて下さいました。

その中、大正町内にある大昭寺様からは利用者様・職員への激励の手紙とお菓子を寄贈頂きました。

感染対応中買ひ物もままならないうちの中のおやつは、療養中の利用者様にとって楽しみとなり、心温まるお手紙は感染対応に追われていた職員の大きな励みとなり、罹患した利用者様も職員も無事にコロナを切り抜ける事が出来ました。



↑頂いた激励のお手紙



クラスター終息後、お菓子とお手紙のお礼にと生活科の利用者様が中心となって蓮の花をモチーフにしたリースを制作しました。利用者様は日頃の創作活動の手練を發揮し、丹精込めて制作に取り組みられていました。花の色は外側に行くほど濃い色になるようにデザインされており、葉の部分には葉脈まで再現されているなど、細部までこだわった作りになっています。



リースを受け取って頂いたお寺の防守である奥様は喜んで頂き、それを見た利用者様も感動して号泣されていました。このような地域との交流を持つことができ、職員もコロナで疲弊した気持ちが和み感謝の気持ちでいっぱいになりました。



ご家族の皆様、地域の方々のご理解・ご協力によりクラスターを終息させることが出来ました。改めて心よりお礼申し上げます。
(滝石支援員)

びもおなかも

まんぷくに

3月。はちす園では紳士淑女の会、テイクアウト食事会、地域外食といった食事を楽しむ行事を開催しました。それぞれの行事の様子をご紹介します。

何から食べようか
悩んでしまうほどの充実さ!



圧倒的に人気だったのは
↑鰻のお弁当↑



3月8日の紳士淑女の会では、「北海道ホテル」と「十勝ガーデンズホテル」のお弁当を計3種類の中から食べたいお弁当を利用者様一人ひとりに選んで頂き、ご用意しました。どのお弁当も、彩りが良くボリューム満点で大好評。味も見た目も楽しんで頂けたようです。あつという間に食べ終わってしまう利用者様も多くいらっしゃいました。笑顔溢れる空間に職員も喜びの気持ちでいっぱいになったと同時に、これからも利用者様に幸せな時間を提供出来たら、という思いをいっそう強く感じました。



「美味しいよ!」とカメラに向かって
答えました♪

3月13日のテイクアウト食事会では、「カリー&カフェS.A.M.A」のスープカレーを召し上がって頂きました。スープカレーのように普段食べる機会が少ないメニューも、テイクアウト食事会では専門店の味が楽しめます。今後もテイクアウト食事会を通して様々なメニューを楽しんで頂けるよう企画を考えています。



野菜たっぷりのスープカレー
食べる前から皆さん興味津々!!

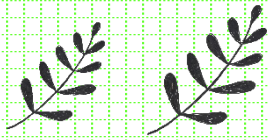
3月18日、受託科と農芸科では地域外食が行われました。感染症対策を考慮しながら実施し、受託科では「ほっともっと」のお弁当を、農芸科では「ボン・ボヤージュ」のお弁当をテイクアウトしました。事前に選んだお弁当を前に、夢中で食べ進められていました。なか



新年度の行事も皆さんの思い出に残りますように...

には大盛りをペロッと平らげて「食べ足りない!もつと食べたい!」と話されるなど、食欲旺盛さが伺える場面もありました。

(佐藤支援員)



紳士淑女の会



スナックショット



甘酒提供



クリスマス会



福笑いレク



おしらせコーナー

今年も2冊作りしました☆



令和3年の思い出の写真で構成した「イヤールアルバム」完成しました。

今年度は生活介護事業所の『まごころ』に加えて、就労支援事業所の『きらめき』を新たに作成しました。それぞれの事業所の日常の活動やお仕事の様子、利用者の皆様の生き活きとした笑顔や真剣な眼差しを堪能できるアルバムとなっています。

引き続きの感染症対策で外出の機会は多くありませんでしたが、その分園内の食事や緑日形式の行事、園舎前での焼

肉等を通して普段の生活に潤いが出るような活動写真が掲載されています。楽しかった思い出を利用者様・職員も共に振り返り、今年は何をしようかな・・・とワイワイ語らうことが出来ました。

保護者の皆様にもぜひご覧頂く機会を!!と考えていますので、ご来園の際はお気軽にお声掛け頂けると嬉しいです。

(ガデイル支援員)



《編集後記》

『そよかぜだより』令和4年春季号いかがでしたでしょうか？ 毎年あつという間に過ぎてしまう一年ですが、もう令和4年になってしまったのですね。

新年度は新たな施設長・職員を迎えてのスタートとなりましたので、次号では着任した職員のご紹介等も含めてご報告できたらと考えています。

夏季号もお楽しみに♪

(ガデイル支援員)

帯広はちす園

『そよかぜだより』

【編集委員長】

ガデイル園 恵

【編集委員】

- 山崎 秀一
- 木幡 由希子
- 紅露 道晃
- 奥村 圭吾
- 滝石 賢汰
- 廣江 美咲
- 佐藤 友那



障害者支援施設 帯広はちす園

〒089-1242 帯広市大正町東1線 102番地1
 TEL 0155-64-5044
 FAX 0155-64-5261
 URL <http://www.shinsyukyoukai.jp/hachisu/>
 MAIL hachisuen@shinsyukyoukai.jp